

# 授業に新聞をどう活かすか

## ～ 新聞を生きた教材として ～

東海大学第三高等学校 野 溝 薫

### 1. 実践の概要

本校は全校生徒1000人余の、諏訪地区唯一の私立高校である。制服を着崩すのではなく爽やかに着こなす指導、生徒対生徒・生徒対教員・教員対教員……等挨拶の徹底にも力を入れている。学習面においては、基礎学力定着を目標とする者もあれば、難関大学合格という目標を掲げ日夜一段上の努力を怠らない者もいる。各授業においても、生徒達の興味関心をひきつけた上で各人に合った学力を身に付けられるよう、我々教職員も工夫を試みている。現代社会では新聞・雑誌・テレビ・ラジオ……といった様々な情報源が生徒を取り囲んでいる。この馴染みある情報収集手段を教科指導にも活かしていければという思いを全職員が抱いている。例えばその手始めとして新聞記事を教育に活用する（NIE）ことを各教科、またはH・Rをはじめとする特別活動、学年運営で実践し始めている。以下その実践例をいくつか紹介したい。

#### 1 社会科（現代社会）

各自新聞記事の切り抜きノートを作成させ、それに対する意見・感想を書かせた。記事の選択は基本的に自由であるが、時に教員がテーマを指示した。

#### 2 社会科（地理・世界史）

授業の導入5～10分間を用い、当日朝刊の注目記事を紹介した。  
→実践報告その i

#### 3 英語科

英字新聞の写真記事を生徒に提示し、見出しをはじめとする和訳の練習を行った。  
→実践報告その ii 【資料1】

#### 4 国語科

新聞記事から抜粋したものをプリントし生徒に配布する。その記事に対する意見発表や作文指導まで学習発展させた。【資料2】～【資料5】

#### 5 理科（生物）

「炭素菌」・「狂牛病」についての新聞記事を抜粋し、生徒に教科書だけでなく生物学への興味を抱かせた。また、生徒自ら新聞記事より関心を持ったテーマについて意見発表も行った。

#### 6 現代文明論

高齢化社会に伴う「老人介護」問題を、新聞記事を用いながら扱った。

#### 7 学年通信

一学年では、学年主任が新聞への投書記事を使って生徒指導を行った。理屈で校則に従わせようとするのではなく、同年代の高校生からの投書により、共感を伴った指導を試みた。→実践報告その iii

#### 8 小論文指導（進路指導）

大学推薦入試を控えた3年生に対し、新聞のコラムを読み、要約した上で自己の考えをまとめさせる授業を展開した。→実践報告そのiv【資料6】

## 2. N | E係としての取り組み

ＮＩＥ係は、少しでも全教職員に「ＮＩＥとは何であるのか」ということを昨年度に引き続き理解を深めてもらい、授業に新聞を活用してもらえよう働きかけを行ってきた。前年度「ＮＩＥ」を先生方に知ってもらい、生徒が新聞という活字に対して抵抗感無く学んでいけるよう自らの授業実践で努めたのを、本年度は本校にＮＩＥが根付くよう、自己実践と平行して教職員全体への呼びかけを心がけた。

1～8のような実践に到るまでにいくつかの試みをしてきた。それを具体的にまとめてみると、

- I 職員朝会で配布される「日報」にて、新聞を授業教材に活用していただけるよう呼びかける。
- II 年度末において、各教科・先生方のN I E実践についての調査・まとめを行う。興味を持っているが方法論に苦心する教職員がいた場合には、前年同様個別に説明し実践までのお手伝いをさせていただいた。

### 3. 新聞の設置場所と整理方法

本館一階事務室横には、全校生徒の目に触れることが出来る各種コンクールや展覧会の応募を募るポスター等が貼られる掲示板が設置されている。そこには各新聞会社からいただく新聞ニュース（写真と数行のニュースが入ったもの）も掲示されている。同場所に長テーブルを置き、生徒は興味を持って各新聞を自由に閲覧できるようになっている。そこには遠慮せず気軽に新聞に興味を持てるよう、係が用意したポスターも掲示されていた。

また、職員室には朝日・毎日・信濃毎日・長野日報・茅野市民新聞・スポーツニッポンといった新聞が、流し台前のコーナーに常時据えられている。職員も自分の授業へ取り入れる時事問題等情報源の吸収を、授業後の手洗いの時間・ちょっとお茶を入れて休憩を……等気軽に行える環境にある。

更に、付属推薦入試で受験した生徒達は、12月、合格通知に同封された大学からの課題レポートに取り組むため、図書館の書籍と共に、この職員室の一角とN I E閲覧コーナーで資料探しを始める。

なお、整理方法についても触れておきたい。毎朝係が玄関脇にある「N I E新聞専用BOX」からコーナーに運び、何新聞かすぐ分かるよう一面を出して並べる。一週間程度印刷室奥のスペースにストックした後新聞整理を行った。また、一ヶ月を目安に大幅な整理も実施した。その間、学校運営・授業等利用度が高い記事に関しては切り抜き、スクラップ保存を行っていた。

#### 4. 具体的実践報告そのい

- ① 実施教科・クラス 3年地理  
(文系選択／ABD組授業)  
2年世界史  
(DFG必修授業)

- ② N I Eに取り組む契機  
教科の特性として、生徒の「受動的な授業」（教職員側からすると一方的な教授）



新聞掲載の写真に注目し、そこに添えられている文章を和訳させる。その際、留意点を三つ設けた。

I 新聞は当日ないしはその週のフレッシュな題材を扱う。

II 和訳表現は出来る限り日本の新聞同様自然な形にする。

III 辞書をひく際は先入観を持たずきちんと調べる。

生徒には英字新聞を拡大したプリントを配布した上、もう一枚のプリントに各人で調べた訳を記入させ、その時間の終わりに提出させる。次時には教員が添削したプリントを返却しながら、多くの生徒がつまずいた箇所を確認したり、直訳からより日本語としてスムーズな意識を学ぶ。

I アフガニスタンでタリバンに蔑視されていた女性が解放された写真  
(女性アナウンサーの復帰) 2001/12

- ・「on the air」を「放送」の意味にとれない生徒が多い。

- ・(間違いが多かった所)

- 「play a major role」→主役を演じる

- 「for the first time in five years」→五年ぶり

II 書き初め

(日本的週間を英語で説明する) 2002/1

- ・「New Year's Day is the day when you make the year's plan.」

- (直訳) : 「元日は自分のその年の計画を立てる日です。」

- (該当格言) : 「一年の計は元旦にあり。」

- ・この該当格言がわかった生徒が31人中5人程度いた。

III 幼いころからの夢の実現

- ・幼少児からの夢を実現できる人の数は限られる。そのビッグな例をあげた。

- (直訳) : 夢実現

- (意識) : 夢かなう

- ・「夢かなう」という訳が出来た生徒は数人であった。自分なりの夢を持ち続けている裏付けか。

巨大ロブスター

- ・「lobster」は「ロブスター」であって、「伊勢海老」ではない。その証拠にハサミがある。その辺りは結構理解されており、現代的だと感じた。

#### ⑤ 実践の感想と今後の課題

教科書で扱う題材は限られている。その中で、少しでも生徒が共感でき得る素材を新聞に求め、通常授業以上の集中力で生徒達は学習していた。文中には以前扱った文法表現や単語も出てくるが、また同時に未習の箇所もたくさん登場してきた。

が、それでも、興味を抱いたことにより熱心に学ぼうとする姿勢が非常に良かった。

画一的な文法・読解教育を越え、生徒が英語の知識を通し、世界情勢・自国の風習・偉人の足跡に自らの人生を重ね合わせる…等発展的な授業が展開できたと思う。

今後の課題としては、新聞を和訳する授業と教科書中心授業との更なる融合をはかりたいと考えている。

## 6. 具体的実践報告そのiii

### ① 実施クラス 一学年全員

② N I Eに取り組む契機

新聞の投書に、「制服を愛校心と誇りを持って着こなしたい。だらしなく着崩すのはどうかと思う。」との女子高生の発言を見出し、物事の善し悪しを考えさせるのに適材と思った。

③ テーマ（ねらい）

教師側からの威圧的な生徒指導ではなく、生徒の共感が伴う指導を心がけたい。

④ 実践の内容

本校は前述の通り、生徒指導に力を入れており、毎月一回学年単位で頭髮服装検査を行っている。大半の生徒は身だしなみを整えているのだが、中には髪を茶色に染めたり、ピアスをしたり、制服のスポンを腰まで下げてはく、スカートを短く折ってはくことにより「個性」を主張しようとする者もいる。

そのような生徒達に一学年では、学年主任が、新聞への投書記事を用いて生徒指導を行った。ある同年代の高校生からの投書記事をプリントし、生徒に配布した。

⑤ 実践の感想と今後の課題

比較的「生徒指導」というと、一步間違えると生徒と教師間の信頼関係が微妙なものになりやすいのだが、第三者の意見感想を読ませることによって、本校の生徒として制服を身に付ける時にはどう振る舞ったら良いのか自己で考えさせることが出来、その後の頭髮服装指導にいくらか良い影響を与えられたと思う。

今後の課題としては、普段から各社新聞に目を通すよう心がけ、その場・その段階に応じた適切な資料として学年運営に、更に「新聞」を活かしていきたい。

## 7. 具体的実践報告そのiv

① 実施クラス            3年古文受講者での希望者  
                                    (E F必修授業)

② N I Eに取り組む契機

推薦入試では最近小論文を受験科目に課す大学が増えている。受験日当日に焦点を合わせ、数ヶ月（生徒によっては数週間）継続した学習が出来る教材として新聞のコラムを選ぶ。単なる感想文や作文に終始せず、起承転結（序論・本論・結論）がしっかりした文章に馴染むことの大切さを学ばせたかった。

③ テーマ（ねらい）

骨格がしっかりとした文章を毎日定期的に読み、自ら理論的構成の論文を書くことに慣れることをねらいとする。

④ 実践の内容

教科担任として「古文」の授業2クラスだけ受け持っていたのだが、その中で、休み時間や放課後受験指導の依頼があった。授業では、一通りの論文の書き方指導を、現代文の授業と平行しつつ進めたものの、基本的には古文・漢文を題材とした展開を試みるため、小論文指導は積極的に相談に来る生徒を対象とし個別指導とした。

一冊専用のノートを用意させ、各家庭で購読している新聞一面にあるコラムを切り取り貼らせる。ノート一ページを一日分とする。まずは2, 3回本文を読みながら、キーワードになる語句や重要な箇所にラインを引いていく。文字数は各校まちまちであるが、「小」とはいえ「論文」なのだから、筋道の通った文章を書くよう指導する。

以上を家庭学習とし、翌朝ノートを提出させ空き時間に添削指導しておく。生徒は

昼休みか放課後に職員室を訪れ、直接良かった点・改善すべき点の指導を受け、それを帰宅後の論文学習に活かしていく。

#### ⑤ 実践の感想と今後の課題

積極的に指導を求めてくる生徒達だからこそ皆一日も欠かさずに地道な学習を続けており、最終目標である大学合格を自分のものとしている。ただ、大学が論文を受験科目としているのも、各人の物の考え方・捉え方を多角的に捉えようとしているためである。生徒が指導を求めてくるのは受験日まで残り僅かという段階のことが多く、文章構成や誤字・脱字、文脈の乱れ等は指導範囲であるが、文章力そのものは一朝一夕に身に付くものではないし、更に自己の思想を培うこととなればなおさらである。

そのため、より早期に生徒自身が受験体制に入る必要があると共に、我々教職員（特に担任・国語科教科担任）も生徒をより喚起するよう努めなければならないと思った。きっと、今後ますます論文重視の傾向が強まってくるだろうから。

### 8. 実践報告全体を通して

#### （係の目を通した感想と課題点）

前年度は、実践校として初年。

係としても、教職員に「NIE」とはどのような言葉の略であるかを説明し、教科書中心の規定の学習内容以上に鮮度が高く、生徒の関心を掴みやすい教材利用の呼びかけを中心に行ってきた。そのためにはまず自らの授業実践ということで「現代文明論」にて、新聞を活用した授業を展開した。1年生担任だからこそ実践できた授業であった。ディベート資料として新聞を出来る限り有効的に用いたつもりだった。新聞を単なる資料として用いただけではなく、自分の得たい情報を取捨選択しつつ的確に求める方法論さえ身に付けたのが大きな収穫だった。膨大な過去の新聞を一ページずつ繰っていったら大変な作業になってしまう所を、例えば「教育」というテーマの記事だけ縮刷版化した冊子の存在等を学んだのだ。

先生方に、NIEコーナーの新聞を徐々に学校生活（授業）へ活かしていただけるようになった2年目の今年度。

係のみならず他教科、他先生の試みも増えてきた。地味ではあったが、直接職員室で先生方に新聞活用を呼びかけたり、日常会話で新聞を取り入れた授業実践の話をしたり、印刷室でしばしば大きな新聞を広げ拡大・縮小コピーする姿を見ていただいた点も、多少功を奏したのではと思っている。特に、今回は教科指導だけでなく、生徒指導、学年運営、進路指導の分野にも幅広く新聞活用できたことは収穫だった。身近な情報源「新聞」の可能性を感じた。

これで実践校としての任期は終了するが、今後も自己の授業へ、適材適所に新聞記事を活用し続けていけたらと考えている。

NIE推進協議会の皆様には、既存の教材の他に、魅力ある教材が我々の生活の近しい所に存在することを気付かせていただいたように思う。学校教育での知識は常に新鮮かつ良い意味で流動的であるべきだろう。その多くの情報を得る媒体の中でも「新聞」は教職員・生徒にとって最も気軽で、楽しいものの一つである。成長する生徒達の柔らかい頭脳にズンズン突き刺さる情報を、是非これからも提供し続けていただければ大変嬉しい。

最後になりましたが、長期間に渡ってお世話になりました。ありがとうございました。

## ATTACKING TERRORISM



### Back on the air

Women announcers play a major role in the return of "Television in Afghanistan," which resumes broadcasting news and religious programs for the first time in five years. PAGE 5

放送再開



女性アナウンサーが「テレビジョンインアフガニタン」の復讐に主要な役割。同局は、ニュース放送と、宗教番組を5年ぶりに再開。



### Winter sunshine

Children enjoy the day of their country's holiday, assigned for the winter holiday—that reads "Sunshine on Your Face" in Japanese. Many schools, however, at the start of the winter holiday, "Sunshine on Your Face" is the day when you make the plan for the year, said David Henderson, the principal of the school. During the opening ceremony, in Tokyo, 1,391 primary, middle and high schools held opening ceremonies.

木曜日の、東京都立五所中学校の3学期の初日で、冬休みの宿題の書き始めと授けする生徒

とことごとくいう。おぼろげに

初めて、一年の勉強をやってほしいと、始業式の中で、校長が3学期の生徒に対して、東京では、2392校の中学校が全行した。

20歳 東京 朝成



### 冬の日

3学期の初日、木曜日の、東京、港区の和歌山小学校の3学期の初日、冬休みの宿題の書き始めと授けする生徒

「2学期は「一年のけいけい元日にあそび」といいます。

それはあそびと勉強の両方を自分のペースで、1学期の目標を達成したい」と、校長が、生徒の冬休みの宿題の書き始めを授け、

東京では、2392校の、小学校、中学校、高校で、始業式が行われた。

## SPORTS



### A dream comes true

Jacob deGrom realized his childhood dream of becoming a New York Yankee on Thursday, as the free-agent first baseman signed a seven-year, \$120 million deal with the AL champion. PAGE 24

BASEBALL PAGE 24  
BASEBALL PAGE 24  
BASEBALL PAGE 24  
BASEBALL PAGE 24  
BASEBALL PAGE 24

### EXCHANGE RATES

Fri 5 p.m. Thurs 5 p.m.

\$=¥127.41-44 \$=¥126.34-37

かなう

かなう。

ジャクソン・デグロムは、子供の頃からのニューヨークヤンキース入りの夢が、はたて実現する。

木曜日。

フリーエージェントで、一選手7年契約(年俸)1億2450万ドル

アメリカンリーグチャンピオンと契約

デザイン

夢の叶え



シーズン・ジャンビは幼少のころからニューヨークヤンキースに入るという夢を木曜日に実現させました。手フリーエージェントにより、一選手として、1億2450万ドルでアメリカンリーグチャンピオンと契約しました。

### 【資料1】



LONDON — A 1-meter-long lobster, Barney, is sent to the London Aquarium Aug. Barney was saved from the cooking pot at a London restaurant. A chef of the restaurant said it was too big and beautiful to eat and called in staff from the aquarium to take the lobster. APP

## 2丁11. 桑野貴子

ロンドン: 1丁。全長1mのロブスターのバーニーが水族館の水槽に送られた。28日にはロンドンのレストランの調理師から救われた。レストランのシェフの1人が「ロブスターは料理をするにはあまりに大きすぎ、美しくすぎる」と言った。その水族館のスタッフから呼ばれて、そのロブスターもつかわれていた。



ロンドン

全長1mのロブスター。バーニーは水族館に送られた。バーニーはロンドンのレストランで調理師から救われた。レストランのシェフの1人が「ロブスターは料理をするにはあまりに大きすぎ、美しくすぎる」と言った。その水族館のスタッフから呼ばれて、そのロブスターもつかわれていた。

古田章一



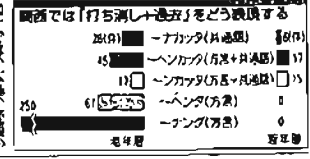
【資料 2】  
方言（関西弁）  
の変化によりて学  
の言葉は生きを学  
言はるること習す  
習する（朝日 2002.  
2/5(火)）

室町以来の言葉「ナンダ」

発祥の関西でも死語

国語研調査

「ナンダ」という言葉は、室町時代から江戸時代にかけて、関西地方で広く使われていた。しかし、戦後、標準語の普及とともに、次第に死語となっていった。国語研究の調査によると、現在では「ナンダ」という言葉は、関西地方でもほとんど使われていない。これは、言葉の消滅の一例として、言語学者の注目を集めている。



「ナンダ」という言葉は、関西地方の方言として知られている。しかし、近年では、この言葉の使用が激減している。これは、若年層の間では、標準語が主流となり、方言の使用が減少しているためである。また、インターネットの普及により、標準語が全国的に通用するようになったことも、方言の使用を減少させている要因の一つと考えられる。

【資料 3】  
自分と向き合う術として  
「瞑目」を考える  
（朝日 2002. 2/5(火)）

【資料 2】  
自己の意見をまとめ発表する  
（長野日報 2001. 9/2(日) 9/3(月) 9/5(水)）

授業前後に「目」を閉じる

「自分と向き合える」と評価



「自分と向き合える」と評価。授業前後に「目」を閉じるという実践は、生徒の自己内省を促す効果がある。教師は、この実践を通じて、生徒が自分の感情や考えに気づき、自己成長を遂げることを目指している。評価によると、この実践は、生徒の自己意識を高め、学習意欲を向上させる効果があることが確認されている。



この実践は、授業の導入や振り返りの場で行われる。生徒は目を閉じ、自分の気持ちや考えを整理する。教師は、この時間を有効に活用し、生徒の自己成長を支援する。また、この実践を通じて、生徒は自分の感情や考えを表現し、他者と共有する機会を得る。これは、コミュニケーション能力の向上にもつながる。評価によると、この実践は、生徒の自己意識を高め、学習意欲を向上させる効果があることが確認されている。

八面観

八面観とは、物事を多角的に捉える能力のこと。これは、問題解決能力やコミュニケーション能力を高めるために重要なスキルである。八面観を持つ人は、様々な視点から物事を捉え、柔軟な対応ができる。これは、現代社会において非常に重要な能力である。八面観を養うためには、多角的な視点から物事を捉える練習が必要である。

八面観

八面観とは、物事を多角的に捉える能力のこと。これは、問題解決能力やコミュニケーション能力を高めるために重要なスキルである。八面観を持つ人は、様々な視点から物事を捉え、柔軟な対応ができる。これは、現代社会において非常に重要な能力である。八面観を養うためには、多角的な視点から物事を捉える練習が必要である。

八面観

八面観とは、物事を多角的に捉える能力のこと。これは、問題解決能力やコミュニケーション能力を高めるために重要なスキルである。八面観を持つ人は、様々な視点から物事を捉え、柔軟な対応ができる。これは、現代社会において非常に重要な能力である。八面観を養うためには、多角的な視点から物事を捉える練習が必要である。





校では、そのまゝに  
入れられてゐる。教科  
ごとの工夫の一部を生徒  
に協力してもらつた。  
「社会科で時事問題の紀  
事を單人に感想文を出し  
た。印象的なテーマはハ  
ンセン病。師生共々うで  
をかつた児童も多かつた  
のに、私たちが何も加  
へなかつた。なぜかを考  
へてゐる。その人は、  
一生生のやまゝのまゝ。  
即ち、受け持ったまゝで  
ホームルーム中、新聞記  
事などをかけて「少年  
法改正」をテーマとし  
て新聞先生を模倣、演  
説などをして、かけつゝ  
やまゝになつてゐる。  
【資料 7】  
本校の N I  
つての掲載  
(中日 2001.

一画コラムを活用、漢字に頼らぬ生徒ら

— 57 —